

令和元年 12 月 5 日

グローバル・フードバリューチェーン研究会のご案内

開催趣旨

現代の食料調達をめぐる環境において、グローバル化は避けて通れない状況にある。その重要な地位が、農産物・食品の貿易にあることは言うまでもない。とりわけ、WTO 体制の実質化が進まない中であって 2 国間・地域間の FTA、EPA が次々に締結され、関税削減を筆頭に様々な貿易制限措置の緩和が進んできた。もちろん、それは、安全面・衛生面での担保措置を伴ったものである。

生産を支える農業資材の貿易は、今日のグローバル化した農業生産の基盤となっていることは言うまでもなく、生産の局面においても、多国籍企業を先頭に国境を越えた生産基地をもって供給基盤としている。また、食品企業が原料を海外で調達して加工食品を逆輸入する構造は、すでにグローバル・フードバリューチェーンの典型例とされる。

東アジア諸国は、その農業生産の類似性や近接性からグローバル化の影響が相互に生じやすい関係にある。

本シンポジウムでは、日本、韓国、中国の取り組みから開発輸入や輸出促進の現状や影響について下記のとおり 4 つの報告をもとに議論を行い、今後の課題を整理することを目的とする。

記

主催：グローバル・フードバリューチェーン研究会
九州大学アジア・オセアニア研究教育機構

日時 2020 年 3 月 14 日（土）13：30～17：30
15 日（日）9：00～12：00

場所 宮崎市 ANA ホリデイインリゾート（889-2162 宮崎市青島 1-16-1）
TEL:0985-65-1555

プログラム

3 月 14 日（土） 食料調達のグローバル化と今後の可能性（シンポジウム）

13：30～13：35 主催者挨拶

13：35～13：50 座長解題 石塚哉史（弘前大学農学部）・豊 智行（鹿児島大学農学部）

13：50～14：20 第 1 報告 菊地昌弥（桃山学院大学経営学部）

「中国産冷凍野菜の開発輸入の現段階

－大手開発輸入業者の企業行動に関するケーススタディ－

14：25～14：55 第 2 報告 魏 台錫（韓国農村振興庁）

「韓国における農産物輸出促進戦略の現状と課題」

15：00～15：30 第3報告 王 学君（南京農業大学）

「中国農食品の安全標準管理の発展とその輸出への影響」

15：35～16：05 第4報告 高橋昂也・前田幸嗣（九州大学大学院農学研究院）

「日本産牛肉の輸出拡大要因と価格・生産の下支え効果」

16：05～16：15 休憩

16：15～16：30 コメント 神代英昭（宇都宮大学農学部）

16：35～17：30 総合討論

18：00～ 懇親会

3月15日（日） アジア諸国の食料流通・消費における新たな潮流（個別研究報告会）

9：00～9：30 第1研究報告

9：30～10：00 第2研究報告

10：00～10：30 第3研究報告

10：30～11：00 第4研究報告

11：00～11：30 第5研究報告

11：30～12：00 第6研究報告

※報告20分、質疑10分（暫定）

懇親会参加費 6,000円

参加申し込み

1. 申し込み方法

別紙1の参加申込書にご記入の上、参加申込期限までにメールにて下記宛にご送付ください。

なお、3月15日（日）の「アジア諸国の食料流通・消費における新たな潮流」と題した個別研究報告会での報告を希望される場合、同申込書にてその旨を確実にお知らせください。また、個別報告の要旨（テンプレートは別紙2）を要旨送付期限までに下記宛にご送付ください。

2. 参加申込期限 1月29日（金）

個別報告要旨送付期限 2月13日（金）

3. 申し込み・問い合わせ先

九州大学大学院農学研究院 食料流通学研究室 劉 然

TEL：092-802-4692 FAX：092-802-4689

E-mail：liuran20170901@agr.kyushu-u.ac.jp

【別紙 1】

参加申し込み票

※ご連絡先を必ずご記入ください。

ご氏名：		
ご所属：		
ご連絡先 電話番号 or メール		
3月14日（土）	シンポジウム	参加 ・ 不参加
	懇親会	参加 ・ 不参加
3月15日（日）	個別研究報告会	参加 ・ 不参加
	報告希望の有無	希望有り ・ 希望無し

【別紙 2】

研 究 報 告 題 目

1 行あける（副題がある時は、一副題一、とし、以下 1 行ずつ繰り返し下げる）

氏名： 所属：

本報告・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 行 35 文字・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【作成要領】

- 1) A 4 判横書き。横 35 文字×縦 30 行（800 字程度/頁）とする。
- 2) 本テンプレートにあるように上（30 mm）、下（30 mm）、左（30 mm）、右（30 mm）にそれぞれ必要な余白を取る。
- 3) フォント：日本語 MS 明朝（題目は MS ゴシック）、英語 Times New Roman
- 4) フォントサイズ：10.5pt（題目は 12pt）

★要旨（ワードファイル）のファイル名を、「個別報告要旨・▲▲」としてください。▲▲に筆頭報告者氏名を記載してください。